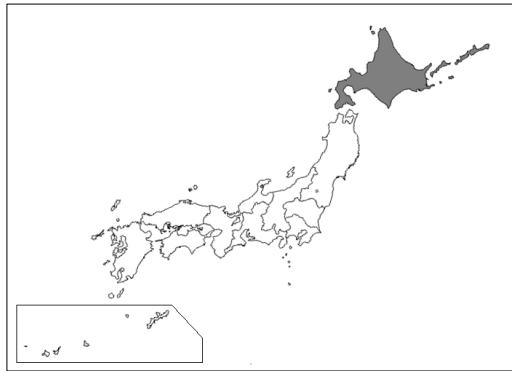


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回 (令和3年12月)	今回 (令和4年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	↓
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	↑

1. 鉱工業生産等の動向

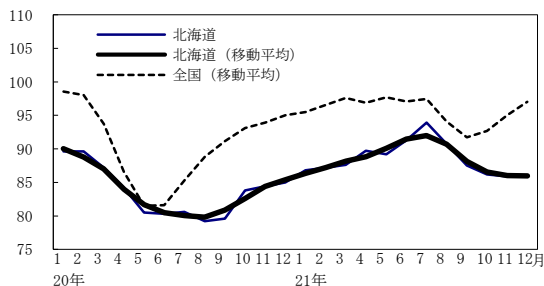
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

10-12月期には、生乳生産は総量では1,071,788tと前年比4.5%増となった。主な水産物¹の生産額(主要9港)は、するめいか等が増加したため、前年比10.8%増となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、鉄鋼が減少したこと、パルプ・紙が減少したこと等により、前期比5.2%減となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月には速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
食料品	25.9	4.8	▲2.8	▲4.5	1.6	▲0.5
パルプ・紙	13.1	▲4.6	▲12.7	▲2.9	▲4.2	▲1.3
電気機械	9.1	▲4.8	▲8.2	▲5.6	6.9	▲4.6
鉄鋼	7.9	28.9	▲17.9	▲11.2	▲11.7	▲5.9
化学・石油石炭製品	7.6	▲8.8	▲12.3	▲9.3	▲3.6	0.3
鉱工業	100.0	0.7	▲5.2	▲1.5	▲0.3	0.1

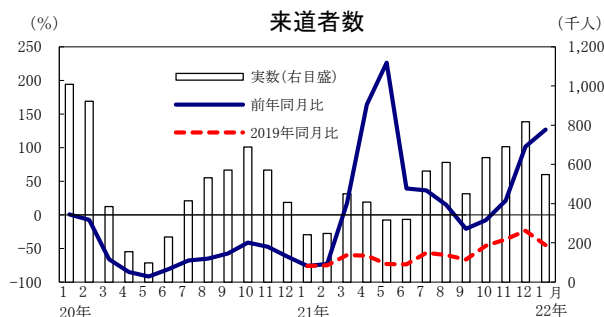
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10-12月期、12月には速報値。

¹主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光はこのところ弱含んでいる。

10-12月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比28.6%増(2019年同期比35.8%減)となった。月別では、10月に前年同月比7.9%減(2019年同月比46.1%減)、11月は同20.9%増(同36.6%減)、12月は同101.4%増(同23.8%減)となった。1月は同126.8%増(同45.4%減)となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

10-12月期は前期比3.3%増となった。月別にみると、10月は前月比3.2%増、11月は同0.9%減、12月は同1.2%増となった。

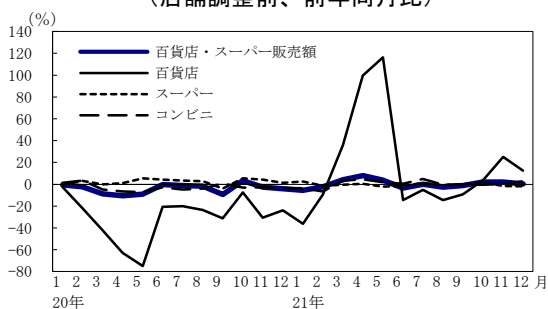
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比1.5%増となった。月別にみると、10月は前年同月比2.2%増、11月は同2.1%増、12月は同0.4%増となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比13.2%増となった。

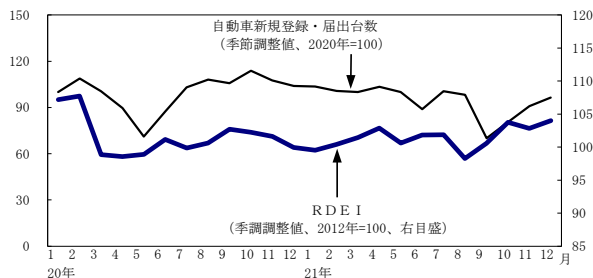
スーパーは、10-12月期は同0.8%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	3.3	3.2	▲0.9	1.2
百貨店・スーパー(*2)	1.5	2.2	2.1	0.4
百貨店(*2)	13.2	3.7	25.0	12.4
スーパー(*2)	▲0.8	1.9	▲1.7	▲2.0
コンビニ(*2)	0.9	▲0.4	0.3	2.9
乗用車(*3)	▲18.2	▲30.3	▲14.3	▲7.7
(季節調整値)(*3)	▲0.4	14.8	12.9	6.2

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	▲	・感染拡大に伴い、まん延防止等重点措置が適用されたため、来客数が減少している（高級レストラン）。
	□	・1月前半は例年どおりの客足がみられたが、後半は激減している（家電量販店）。
	×	・前々年比80%まで回復していたが、過去の感染者数とはけた違いの第6波が到来したことで人出が大きく落ち込んでいる。外出や外食の機会が一気に縮小している（タクシー運転手）。
	□	・3か月前と比較して受注量に変化がみられない（食料品製造業）。
	▲	・コンテナ不足の影響で、特に輸出入の取扱量が通常時と比べて減少傾向で推移している（輸送業）。
企業動向関連	○	・新型コロナウイルスの第6波が生じているが、競合各社において積極的な新店舗展開や新ビジネス展開を進める様子がみられることから、景気はやや良くなっている（家具製造業）。
	□	・まん延防止等重点措置の適用による中心繁華街へのダメージが大きい。一時的な影響とみられるが、飲食関連からの求人数が減少している（求人情報誌製作会社）。
雇用関連	○	・2023年の新卒予定者を対象とした学内合同企業説明会について、各業界からの出展申込みが軒並み好調であり、企業側の新卒採用意欲の回復がうかがえる（学校〔大学〕）。
	▲	・前年10月の緊急事態宣言明けから続いていた回復基調がここに来て急速にしぼんでいる（求人情報誌製作会社）。
その他の特徴コメント		○：新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により小学校などの休校が相次いでいる。昼食需要として冷凍食品、カップ麺、菓子パンなどが急に売れ出した（スーパー）。 ▲：年末年始までは航空需要が堅調に回復していたが、1月中旬からの全国的な新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、ビジネス需要、観光需要が急激に減退している。道民割などの需要喚起策も休止となり、感染拡大が落ち着くまで回復が期待できない状況となっている（旅行代理店）。
先行き	□	・新型コロナウイルスの感染状況に収束がみられないことから、今後も景気は変わらない（コンビニ）。
	▲	・新規感染者数がピークアウトすれば、景気も回復し始めるとみているが、時期については不透明である（観光型ホテル）。
	□	・新型コロナウイルスについて収束が見通せないことから、民間建築案件の受注動向や資材、燃料の価格高騰、品不足などが懸念材料となっている。一方、公共土木工事については、来年度予算成立後の新規受注を期待できることから、業績の下支えとなる（建設業）。
		○
	▲	・半導体関係の供給不足によって様々な製品の供給が遅れ、納期がずれこんでいることに加えて、年明けから春にかけて値上げが起きていることから、急な発注が増えており、生産遅れが発生している。また、建築関連においても仕事が遅れ気味なことから、忙しくなるのは夏の終わり頃になりそうな気配があり、先が読みづらい状況となっている（その他非製造業〔鋼材卸売〕）。
雇用関連	▲	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響から、雇用調整助成金の相談件数が増加傾向にあるため、今後の景気はやや悪くなる（職業安定所）。
その他の特徴コメント		○：現在の売上減少は感染拡大に伴う一時的な現象とみられる。客にもウィズコロナが定着していることから、感染が収まると回復傾向に向かうことになる（百貨店）。 □：今後については、遅れていた納車が進むことで年末までの受注残による売上が見込める。ただ、現在、新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加していることで、これから受注減が生じることも懸念される（乗用車販売店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

